



園だより かけはし

キッドワールドこども園

令和7年4月1日

ご入園・ご進級おめでとうございます。令和7年度は、24名の新入園児を迎え園児213名、職員53名で新しい1年がスタートしました。

今年度は、保育を行う環境の見直し、子どもが遊び込めるような空間作りを行っています。園外活動では、散歩に行く機会を増やし、季節や自然を感じられるような体験活動を計画しています。また、職員の資質向上を目指して子どもとの関わり方、言葉掛け、遊びの取り組み方などについての園内研修にも力を入れ、キッドワールドこども園に通わせて良かったと思ってもらえるようにしていきたいと思います。

はじめてこども園で過ごすお子さんやサード保育園から進級してきたお子さんなど、期待と不安で胸がいっぱいと思いますが、子どもたちが楽しく園に通えるよう、一人一人との関りを多く持ち、安心して過ごせる園づくりを目指してまいります。

一年間ご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



行事予定

日	曜日	園児に関すること
1	火	進級式
3	木	身体計測(5歳児)
4	金	身体計測(4歳児)
9	水	身体計測(2歳児めろんぐみ)
10	木	身体計測(2歳児ぶどうぐみ)
11	金	身体計測(3歳児)
15	火	身体計測(1歳児Aクラス)
16	水	身体計測(1歳児Bクラス)
17	木	健康診断
22	火	避難訓練(火災)
23	水	弁当日
24	木	身体計測(0歳児)
25	金	誕生会
30	水	避難訓練(不審者対応)

新人職員について

令和7年4月より新採用となった職員を紹介させていただきます。



(保育教諭)
はだの あや
羽田野 亜矢



(栄養士)
いわや ちひろ
岩谷 千尋

お知らせ・お願い

- ※ 令和7年度、年間行事予定は、ルクミーでお知らせさせていただきます。日時の決まっている行事につきましては、年間行事予定に入れていますので、ご確認をお願いいたします。また、場合によっては変更することもあります。
- ※ 4月の弁当日は、23日(水)です。子どもさんが楽しみにしています。忘れないようにお持ちください。
- ※ 4月の保育料の納入期間は、23日(水)・24日(木)・25日(金)の3日間です。
(期限内に納入できない場合は、教頭の奥下までご相談ください。)

令和7年度のキッドワールドこども園について

全職員が園の基本理念でもある「和顔愛語」で、園児一人一人に対し、あたたかな表情で関り、愛情深い言葉で接し、元気で思いやりのある人間性豊かな子どもを育ていきたいと思ひます。

さて、令和7年度の取り組みについて保護者の皆様にお伝えさせていただきます。

保護者の皆様には、ご協力をお願いすることがあるかと思ひますがどうぞよろしくお願いいたします。

1. 安心して子どもを預けることのできる園づくり

- 連絡ノート(0・1歳児)やルクミーの個別連絡を活用し、情報の共有を図ります。また、クラスだよりやルクミーのおたより、YouTube配信等により子どもの成長した姿を伝えていくようにします。
- 全職員を対象として、子どもに対しての接し方や声かけの仕方についての園内研修を実施し、職員の資質向上に努めていきます。

2. 子どもが遊びこめるような環境づくり

子どもの興味が湧くような教材(積み木、絵の具、ままごと)等を揃え、手に取りたくなるように配置し、子どもが遊び込めるような環境づくりをしていきます。

3. 造形活動への取り組み

経験した活動や園外活動での見学や体験等、イメージしたものや感じたことを自由に表現できるように関わっていくようにします。また、様々な形の組み合わせ、美しさや面白さに触れることができるようにしていきます。

4. 食育を通した活動の充実

年齢ごとに食育計画を立て、栄養士と連携をとりながら、自分たちで育て収穫した物を食べたり、クッキングをしたりする経験ができるようにしていきます。

5. 健康で安全な園のアピール

毎朝、看護師が保育室を巡回することにより子どもの健康状態を把握していきます。また、冬場では、感染症対策として定期的な空気の入替えや手洗い・うがいを丁寧に行う習慣が身につくようにしていきます。さらに、感染症が流行する前に、保護者の方にルクミー配信でお知らせしていきます。

6. 避難時における対応

毎月行われる避難訓練では、不審者対応や大地震・大津波などの様々なシチュエーションを想定した避難訓練を行い、状況に合わせた避難ができるようにしていきます。

7. 保護者との信頼関係作り

保護者面談を行い、園での様子を伝えていくことや、家庭での様子や育児についての悩みを聞くことで、園生活における情報の共有を図ります。また、5歳児の保護者に対し、就学に向けての懇談会を開き、不安に感じていることや気になることへの思いを受け止め安心できるような情報を伝えるようにします。

学期の終わりや行事の後にはアンケートを実施することや、意見箱を設置することで園の問題点や意見交換などを行ない良好な関係を築けるように努力します。

「子どもと嘘」



キッドワールド総合園長 牧野 桂一

先日、ある保護者の方から「この頃子どもが嘘をつくことがあるのでとても気になっています。私たち大人は子どもの嘘をどのように受け止めたらいいのでしょうか」ということを尋ねられました。これまでも同じようなことが何度もありましたので、この機会に「子どもと嘘」ということについて、少し突っ込んで考えてみたいと思います。

ここで出されているように子どもの嘘が問題になるのは、子どもの嘘に気づいたときのショックの大きさからではないかと思います。子どもの最も身近にいる大人としては、子どもに嘘をつかれたということは、子どもを全面的に信じていた親子関係がひっくり返されたようなものです。これまで一心に子育てをしてきた保護者にしてみれば、このことはこれまでにない一大事なのです。

一方で、私たちは、「どのような事情があろうと嘘をつくことはいけない」「嘘つきは泥棒のはじまり」などという考え方が心のどこかにあります。したがって、子どもに嘘をつかれたということは、これまでの親子関係が否定されたというように感じてしまうのかも知れません。

周りの大人が、この子どもの嘘を考えるに当たって重要なことは、子どもが「なぜ嘘をついたのか」という背景を知ることです。その背景には、「周りの大人が子どもを追い込んで嘘をつかしてしまっている」ことや「周りの大人の期待に沿おうとして嘘をついてしまっている」ことなどがあるといわれています。また、「自分を守るためにつく嘘」や「周りの大人の気を引くための嘘」などもあるといわれています。このように、嘘には必ず嘘をつく原因となる「何らかの子どもの思い」があります。したがって嘘をつかれたということがわかって、子どもに対して「嘘をつく悪い子」というように「性格に原因を求める」のではなく、「背景に何があるのだろうか」と考えることが大切です。

このような子どもの嘘にも「事実と違うことを言っているとわかってつく嘘」と「事実と違うということがわからずにつく嘘」とがありますので、それが大人から見ると嘘のように見えても子ども非難せずに、まず子どもの話をよく聞き、嘘をつく場面や理由を理解してあげることが大切です。



子どもは2歳半頃から嘘をつくようになります。これより幼い頃は、空想や願望を話すことはあっても、嘘をついているという意識はほとんどないようです。

3歳になると自分の言っていることが現実と異なっていることや、嘘をつく目的を少しずつ意識できるようになってきます。この頃の嘘は、程度がひどくなければ、発達の範囲内で誰にでも見られる一過性のもと考えられますので、それほど気にすることはありません。子どもは、嘘を意識的につくことが時々ありますが、大抵は叱責されることから身を守っていることが多いようです。このような時には、子どもの

言い分によく耳を傾けてあげると子どもは安心して嘘をつかなくなります。しかし、3歳を過ぎてから嘘をつくことが多くなるような場合には、嘘の背景をしっかりと把握する必要があります。

その背景には、「自分が得をしたい、欲しいものを手に入れたと思った時に嘘をついたらうまくいった経験がある」「叱られたくない、罰が怖いと思って嘘をついたら叱られなくてすんだ経験がある」「やりたくないことがあるときに嘘をついて欺いたらやらずにすんだ経験がある」「本当のことが分かったら困るので嘘をついたらそれを隠すことができた経験がある」というような「自己防衛的な嘘」と「周りの大人の気を引きたい時」や「周りによく思われたい、いい顔をしたいという時」につく嘘がありますが、これらのことが重なっていくと嘘が習慣化してしまうことがありますので注意が必要です。



このような子どもの嘘に出会った時には、まずは子どもが嘘をつくのも成長の一部であると冷静に受け止めて対処することが大切です。そして、この時、「嘘をついてはいけない」とだけいうのではなく、嘘をついてはいけない理由を子どもにもわかりように伝える必要があります。嘘をつくことが癖になってしまうと、周りの人を傷つけ信用されなくなり、自分の居場所も失うことになってしまいますので、早い時期に「狼少年の話」などを例にしながら、子どもにも分かるように説明することが求められます。

一方、嘘をついた子どもに対しては、周りの大人が気をつけなければならない問題として、「頭ごなしに叱る」「子どもの話をきちんと聞かずに謝らせる」「嘘をついた理由をしつこく問いただす」というようなことをすると親子の信頼関係が崩れ、子どもの嘘をなくすことはできません。逆に、「嘘をつかれて悲しかったこと」「嘘をつかれて残念だったこと」「日頃厳しくしすぎて嘘をつかせてしまったことへの反省」など、嘘をつかれた親の気持ちを素直に伝えると、子どもは、自分の嘘がどれほどの大きな影響を与えたのかを自覚するとともに、親が自分を大切に思っている気持ちを理解することができ、自分も嘘をつかず正直に話そうという気持ちになってくれるようです。



<エッセイに一言>

今回は、「子どもと嘘」についてのテーマでした。誰も嘘をつかれたら悲しくなるものですね。その嘘を我が子にされたらと思うと自分の子育てが間違っていたのではないかという錯覚に陥ってしまうのかもしれませんが、エッセイの中で、子どもが嘘をつくのも成長も一部であるということであれば、その嘘に対してどのように子どもと向き合っていくかを考え、嘘をついた理由がわかればそれに対してどのように対処していけば良いかというのが見えてきます。つい頭ごなしに怒ってしまいがちになるものですが、一度冷静になって物事を捉えることの大切さを改めて考えさせられる内容でした。

立場を変えて考えてみると、私自身も子どもの頃に、叱られたくないという思いから嘘をついたことがあります。すぐにわかる嘘だったので当然、親から叱られました。その時に、言われた言葉が「嘘をつくことで周りにいる人も悲しい気持ちにさせる」という言葉でした。その言葉を言われたことで、自分の嘘が周りの人も巻き込むようになっているのだと感じたことが強く心に残っています。

成長する過程の一部である「嘘」に対して、私たち大人が子どもの気持ちを理解して対応してることが大切ですね。